

防災学習実施案

タイトル	地震津波の恐ろしさを知る
日 時	平成17年5月13日(金)午後1時25分~3時15分
場 所	由岐中学校1学年教室
目 的	過去に日本で起きた地震津波災害映像を観ることで、地震津波の恐ろしさを知る。 続いてグループワークでは、災害時の自分の身の回りの物や人などについて自ら考え、生徒どうし共同で進めていく力を養う。
方 法	<p>1. DVD鑑賞</p> <p>(1) 浜大吾郎、斎藤亮のあいさつ</p> <p>(2) DVD「20世紀 日本の地震災害」に関する説明(浜)</p> <p>(3) 「20世紀 日本の地震災害」を鑑賞 -----休み時間-----</p> <p>2. グループワーク「災害時の身の回りを考える」</p> <p>(1) 今回のグループワークの説明(浜)</p> <p>(2) 5人グループに分かれる(6班)</p> <p>(3) 各グループに模造紙、ポストイット、マジックを配付する。</p> <p>(4) 「災害時に心配な物や人・危険な物や人」について、思いつくままに白色のポストイットに書き、模造紙に貼る(15min) (グループ内で相談しても良いし、各個人で考えても良い)</p> <p>(5) 「災害時に役立つ物や人・大切な物や人」について、思いつくままに緑色のポストイットに書き、模造紙に貼る(15min) (グループ内で相談しても良いし、各個人で考えても良い)</p> <p>(6) グループごとに発表する(3min×6班)</p> <p>(7) アンケートを行うことで、生徒一人一人に学習の反応をさせる。 (授業中に時間が取れない場合は、ホームルームの時間に行う)</p>
準 備 物	<p>1. DVD鑑賞</p> <p>中学校: プロジェクター、スクリーン、延長コード</p> <p>総務課: DVD「20世紀 日本の地震災害」、DVDプレーヤー、スピーカー、オーディオ接続コード</p> <p>2. グループワーク</p> <p>中学校: 模造紙、ポストイット、マジック</p> <p>総務課: 指し棒、笛</p> <p>3. その他</p> <p>中学校: アンケート用紙</p> <p>総務課: デジタルカメラ</p>

防災学習実施案

タイトル	災害を語り継ぐ
日 時	平成17年5月16日(月)午後2時25分~3時15分
場 所	2階ホール
目 的	昭和南海地震の体験談や、昭和南海地震に関する物語の朗読を聞くことで、過去の被災状況や、災害の恐ろしさ、命の尊さについて知る。
方 法	<p>1. 講師の紹介</p> <p>2. 昭和南海地震津波の体験談(眞南卓哉氏)(20min)</p> <p>(1) 真南氏に、昭和南海地震の体験談を話して頂く。</p> <p>(2) 話に合わせて、昭和南海地震の写真をスライドで見せる。</p> <p>3. 朗読「シロのないた海」(四宮治義氏)(20min)</p> <p>(1) 四宮氏に、物語「シロのないた海」を朗読して頂く。</p> <p>(2) 朗読に合わせて、物語の絵をスライドで見せる。</p> <p>4. 質疑応答</p>
準 備 物	中学校:スクリーン、延長コード、デジタルカメラ 総務課:パソコン、プロジェクター、パワーポイントのデータ

防災学習実施案

タイトル	防災訓練
日 時	平成17年5月17日(火)午前10時30分~12時00分
場 所	玄関前駐車場(起震車)、体育館(心肺蘇生)
目 的	災害を疑似体験(起震車による地震体験)したり、心肺蘇生講習を受けることで、災害時に的確に行動できる技能を修得させる。
方 法	<p>1. 講師の紹介</p> <p>2. 起震車による地震体験</p> <p>(1) 班ごとに起震車による地震を体験する。 (地震から身を守る練習、火の元の安全確保を行う練習)</p> <p>3. 心肺蘇生講習</p> <p>(1) 班ごとに心肺蘇生講習を受ける。</p> <p>(2) 講習後、キーholder型フェイスシールドを全員に配る。</p> <p>4. 質疑応答</p>
準 備 物	総務課：キーholder型フェイスシールド

防災教育実施案

タイトル	地震津波のメカニズムを知り、対策を考える
日 時	平成17年5月20日(金)午後1時25分~3時15分
場 所	由岐中学校家庭科室
目 的	講義では地震津波発生のメカニズムや、発災後の被害想定を理解させる。続いてグループワークでは、前回のカードをKJ法でまとめさせ、そこから見えてくる災害時の対策について考えさせる。今回の授業では、今後、生徒達が考えていく防災のテーマを生徒達自身で気づかせる。
方 法	<p>1. 徳島大学 中野晋先生の講義「南海地震が起これば由岐町はこうなる！」</p> <p>(1) 中野先生の紹介(浜)</p> <p>(2) 中野先生の講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震津波発生のメカニズム ・南海地震の被害想定など <p>-----休み時間-----</p> <p>2. グループワーク「災害時の対策を考える」(カードの仲間分けゲーム)</p> <p>(1) 今回のグループワークの説明(浜)</p> <p>(2) 前回のグループごとに分かれる(6班)</p> <p>(3) 5/13に作成した模造紙、ポストイット、及びマジックを各班に配付する。</p> <p>(4) 前回のカードを見て、付け足したいカード、削除したいカードがあれば、グループ内で検討して、追加もしくは削除する(5min)。</p> <p>(5) 新しい模造紙(大)を配付する。</p> <p>(6) 前回作成した「災害時に心配な物や人・危険な物や人」及び「災害時に役立つ物や人・大切な物や人」のカードを、仲間(テーマ)ごとにグループ分けを行う。仲間ごとのカードをピックアップして、新しい模造紙に貼っていき、それらを囲んで名前を付ける(20min)。</p> <p>(7) グループごとに発表する(3min×6班)</p> <p>(8) アンケートを行うことで、生徒一人一人に学習の反応をさせる。 (授業中に時間が取れない場合は、ホームルームの時間に行う)</p>
準 備 物	<p>1. 中野先生の講義</p> <p>中学校：プロジェクター、スクリーン、延長コード 総務課：指し棒</p> <p>中野先生：パソコン</p> <p>2. グループワーク</p> <p>中学校：前回作成した模造紙、新しい模造紙、ポストイット、マジック 総務課：指し棒、笛</p> <p>3. その他</p> <p>中学校：アンケート用紙、デジタルカメラ 総務課：デジタルカメラ</p>

仲間分けの例

- ・日頃から備えておく物（避難袋に入れておく物）
- ・情報収集に使う物
- ・安全な場所
- ・避難所で役立つ物
- ・人（大切な人、被害に遭いやすい人、助けてくれる人）
- ・救助の時に役立つ物
- ・物資を運ぶのに役立つ物
- ・移動に役立つ物
- ・被害に遭いやすい場所
- ・避難場所
- ・気をつけたいこと

どうしても当てはまらないものは、「その他」としても良いし、削除したい場合は、「削除」というグループを作る（前回出たカードを破って捨てたりしない）。
新たな付け足したいカードが思いついたら、新たにカードを書いても良い。

防災教育実施案

タイトル	地域の防災マップをつくろう！
日 時	平成17年6月3日（金） 6月10日（金） 午後1時25分～3時15分
場 所	6月 3日：志和岐、東由岐、西の地、西由岐、田井、木岐 6月10日：由岐中学校家庭科室
目 的	前回のグループワークでは、災害時の危険な場所や安全な場所等が生徒達自身によって見つけ出された。今回は実際に地域に出てそれらを見つけ、見つけたものをマッピングして、地域の防災マップをつくる。そして生徒達自身はこの作業を通して、地域の安心安全に关心を持つことを目的とする。
方 法	<p>1. 防災探検（6月3日）</p> <p>(1) 各班の担当地域を決める（大田）</p> <p>(2) 各地域に移動する。 東由岐、西の地、西由岐：徒歩 志和岐、田井、木岐：自動車</p> <p>(3) 地域内の危険な場所や安全な場所などを探して地図に書き入れ、デジカメで写真を撮る。</p> <p>2. 防災マップづくり（6月10日）</p> <p>(1) 各班に分かれて、防災探検で調べてきたことや写真を大判の地図に記載する。 「防災マップ作成の極意」を参考にして、班の中で協力して作成させる。</p> <p>(2) グループごとに発表する（3min × 6班）</p>
準 備 物	<p>1. 防災探検</p> <p>中学校：デジカメ、送迎用自動車、メモ用紙、画板</p> <p>総務課：各地域のA3サイズの地図（各地域×7枚）、グループワークの結果、デジカメ、送迎用自動車</p> <p>2. 防災マップづくり</p> <p>中学校：写真、デジカメ、マジック</p> <p>総務課：指し棒、大判の地図（各地域）</p>

防災探検のポイント（5/20のグループワークの結果から）

- ・避難できる場所
 - 学校、お寺、山、公民館、丈夫で高い所
- ・危険な場所
 - がけ、ガソリンスタンド、狭い路地、川
- ・危険な物
 - 倒れそうな電柱、津波で流される物、ガスボンベ、ブロック塀、看板、標識、ガラス、
- ・危険な建物
 - 古い建物、橋

生徒達に気づかせるポイント

地震について

地震が発生すれば、どこが危険だろうか？

津波について

津波避難場所はどこ？

避難の時に障害になる物は？

津波で流される危険な物は？

津波から避難した後について

自宅が住めなくなっていたら、どこで避難生活を送ればいいだろうか？

行政に対して、仮設住宅をどこに建ててもらおうか？

あらかじめ、由岐町津波避難マップを各班ごとに1枚ずつ配付する。

防災教育実施案

タイトル	防災と福祉を考えよう！
日 時	平成17年6月17日(金) 午後1時25分~3時15分
場 所	5時間目：由岐中学校家庭科室 6時間目：避難体験 / 1~2階までの階段 旗揚げ式アンケート / 家庭科室
目 的	5月20日のグループワークにおいて、生徒達から災害時に心配な人として、高齢者などのカードが出てきた。しかし現段階で生徒達は、「災害時に如何にして自分が助かるか」に関心が向けられている。また対策にしても、ハード的なものに偏りがちになっている。今回は災害ボランティアの話や災害時要援護者の擬似体験を行うことで災害から周りの人を守ることや、生徒自身が被災した時のこと、さらには防災と福祉のつながりの重要性に気づかせることを目的とする。
方 法	1. 災害ボランティアの話（徳島市社会福祉協議会 福本誠司氏）(40min) (1) 福本氏と浜との会話のやり取りを生徒達に聴かせる。 (2) 話の流れ ・社協とは　・災害ボランティアとは　・台風23号での徳島市災害Voセンター ・災害ボランティア体験談　・ボランティアの重要性 2. 災害時要援護者体験 (30min) (1) 生徒を6つの班に分け、シニア体験セットによる体験をする班を3つ、車いすによる体験の班を3つとする。 (2) 班の中で、1名を災害時要援護者役として上記の物品を使用させる。他の者は避難支援者とする。 (3) 津波からの避難を想定して、校舎の1階から2階まで、班で協力し合って避難する。この時、くれぐれも事故が起こらないように気をつけること。 (4) 時間があれば、災害時要援護者役や、物品を替えて避難を行う。 3. 旗揚げ式アンケート (20min) (1) 教室に戻り、今回の体験について旗揚げ式のアンケートを行う。 このときのコーディネートは福本氏と浜で行う。 (2) 最後に福本氏に講評を行なって頂く。 (3) アンケートを行うことで、生徒一人一人に学習の反応をさせる。 （授業中に時間が取れない場合は、ホームルームの時間に行う）
準 備 物	1. 災害ボランティアの話 中学校：スクリーン、プロジェクター、延長コード、デジカメ 総務課：パソコン、指し棒、ワイヤレスマウス、デジカメ 2. 災害時要援護者体験 総務課：シニア体験セット×3、車いす×3、担架×2（時間があれば使用） 3. 旗揚げ式アンケート 総務課：色画用紙4色セット×31セット、質問のシナリオ アンケート用紙

防災教育実施案

タイトル	次世代に夢をつなぐ防災カレンダーブル 「1~6月までの素材」
日 時	平成17年9月30日(金) 午後1時25分~3時15分
場 所	由岐中学校家庭科室
目 的	カレンダーブルを通じて今までの授業をふり返らせ、ビジュアルを使って人に伝えることのおもしろさや、モノを作る楽しさを伝える(防災から出発して、様々な事柄に対する興味を持たせる)
方 法	<p>1. カレンダーブルの極意(ほっとこうち編集部 廣澤靖子氏)(20min)</p> <p>(1) 赤岡のカレンダーブルについて話していただく。</p> <p>2. カレンダーの基本形について考える(30min)</p> <p>(1) 模造紙を1月のカレンダーに見立てて、カレンダーの構成を生徒達と考える。 司会者:浜(大)、齋藤 下記の内容を生徒達から上手く引き出す カレンダーの構成:素材(絵や写真)、日付、「今日は何の日フッフ~」、 防災標語、メンバー氏名、表紙</p> <p>カレンダーの単位:1月、2月、6ヶ月、1年(できれば1月単位にする) 各班の仕事:各班(6班)が2ヶ月分の素材を作成(例えば1月と7月) 1つは今までの授業で習ったこと(教訓)人に伝えたいこと 1つは、各地域の災害に強い町の模型(後日作成する)</p> <p>先生の仕事:表紙の作成 先生にも仕事を与えちゃおう! 日付の作成(統一した方が見やすいだろうから)</p> <p>(2) 1~6月までのカレンダーに関する素材を検討する。 今までの授業の流れを示して、何が教訓になったか、何を地域の人に伝えたいか、発表させる。 ex. 災害時要援護者対策、心肺蘇生、日頃から備えておくもの、 防災・災害インタビュー(先人から学べ)、地域を知ろう(防災マップ)、 災害の恐ろしさを知るetc.</p> <p>(3) 出てきた項目をカードに書く(6枚作成)。</p> <p>(4) 各班の代表者にカードを引かせて、班のテーマとする。 各班にテーマに合った写真集(授業の時の写真:CD)を渡す。</p> <p>----- 休憩(10min) -----</p> <p>3. 素材選定及び表題作成(50min)</p> <p>(1) 各班でパソコンを用いて写真集を見、使える写真を選定する。</p> <p>(2) 写真が決まったら、それに付ける教訓を考え、筆ペンで紙に書く。</p> <p>(3) 班ごとに発表する。 もしも写真の撮り直しをしたいなどの要望があれば、具体的な取り直しの計画を立てさせ、別の日の放課後に行う。</p>

準備物	<p>1 . カレンダーブづくりの極意 中学校：延長コード 総務課：プロジェクター、スクリーン</p> <p>2 . カレンダーの基本形 中学校：磁石 総務課：模造紙、ポインター、カレンダーの完成例、カード</p> <p>3 . 素材選定及び表題作成 中学校：パソコン3台、延長コード、ポストイット、マジック(6組)、筆ペン、白紙 総務課：過去の写真データ(各授業ごとにCDにコピーしておく)、パソコン3台、延長コード、プリンター</p>
-----	---

防災教育実施案

タイトル	次世代に夢をつなぐ防災カレンダーブル 「防災標語」
日 時	平成17年10月14日(金) 午後1時05分~2時45分
場 所	由岐中学校 1学年教室
目 的	カレンダーに掲載する防災標語を全員で考えることにより、防災に関する教訓などを共通認識するだけでなく、標語づくりを通して国語力のアップも目的とする。
方 法	<p>1. 防災標語の作成</p> <p>(0) 事前に教室の中に防災標語を吊すためのロープを渡しておく。</p> <p>(1) 学習の流れについて説明する。</p> <p>(2) 防災標語に使うキーワードを出し合う。(10min)</p> <p>(3) 生徒に、1人1枚の短冊とペンを配る。</p> <p>(4) 1人1人で標語を考え、標語ができた人は教師のところへ提出する。(30min) 教師はできた標語をロープにくくり付けていく(場合によっては、早く標語ができる生徒にも手伝ってもらう)。 生徒は最低1個の標語を作る。 時間に余裕のある生徒は、複数の標語を考える。</p> <p>----- 休憩(10min) -----</p> <p>(5) 採点方法について説明する。 手上げの投票方式で、1人3回まで手を挙げることができる。</p> <p>(6) 教師は、生徒達の作った標語を順番に読み上げていく。 生徒達は、どれに投票するかを決める。</p> <p>(7) 教師は順番に標語を読み上げ、生徒は手上げ方式で投票する。教師は付せんに得点を書き込み、標語に貼っていく。 高得点の12点を優秀作品とし、カレンダーに使用することとする。</p>
準備物	1. 標語の作成 中学校: デジカメ 総務課: 標語を記入する短冊、ロープ、デジカメ

防災教育実施案

タイトル	次世代に夢をつなぐ防災カレンダーブック 東京みやげ争奪！「今日は何の日フッフ～」
日 時	平成17年10月21日(金)、11月4日(金) 午後1時25分～3時15分
場 所	由岐中学校1学年教室
目 的	過去の災害を調べることで、生徒自身がその災害から教訓を得る。 またビデオ学習を組み込むことで、災害の恐ろしさを再認識し、防災学習の原点に戻る。
方 法	<p>1. ビデオ学習「20世紀日本 大災害の記録」</p> <p>(1) 学習の流れについて説明する。</p> <p>(2) 各班長に、調べる月を決めるくじ引きをさせる。 (1,7月)、(2,8月)、(3,9月)、(4,10月)、(5,11月)、(6,12月)) 引いたくじにより、班ごとに調べる担当月を決定する。</p> <p>(3) 続いて、主な災害名を書いた「災害チョイス・カード」を引かせる。</p> <p>(2) 1班から順に、災害チョイス・カードの中からから、観たい災害を選択する。</p> <p>(3) 災害の日付を観て、担当月の班は、災害カードに災害名、災害の起きた日、災害の内容、及び気づいたことなどを記入する。</p> <p>2. 調べ学習</p> <p>(1) 災害チョイス・カードは月ごと災害をまとめているので、担当月の班にそのカードを渡す。</p> <p>(2) 生徒達は、班で協力し合って、最低限、そのカードに出ている災害の日付を調べる(次回までの宿題とする。家族の人に手伝ってもらうことも可。その方が家庭で防災の話をするだろうから) なお、1日目の授業終了後、防災に関するパンフレットや雑誌などを教室に置いておく。 その他調べる方法として、書籍や町史、インターネットなどがあることを生徒達に教える。</p> <p>3. まとめと発表</p> <p>(1) 班ごとにまとめた内容を模造紙に貼る。</p> <p>(2) 班ごとに発表し、先生方が評価する。</p> <p>(3) 評価の高かった班から、東京みやげを選ぶ。</p> <p>採点基準：調べた災害一つにつき、1点 先生1人の持ち点を5点とし、調べた内容や班で協力していたなどを基準にして得点を付ける。</p>

準備物	<p>1 . ビデオ学習 中学校：デジカメ、延長コード 総務課：ビデオ、パソコン、スピーカ、プロジェクター、スクリーン、デジカメ、くじ引き、災害チョイス・カード、災害カード(1班に20枚ずつ)</p> <p>2 . 調べ学習 総務課：防災パンフレットや雑誌</p> <p>3 . まとめと発表 中学校：模造紙、デジカメ 総務課：得点シール、ポインター</p>
-----	---

防災教育実施案

タイトル	次世代に夢をつなぐ防災カレンダーブル - 1 「7~12月」
日 時	平成17年11月18日(金) 午後1時25分~2時15分
場 所	由岐中学校 1学年教室ほか
目 的	前回作成した由岐町災害復興計画案の中から、各班ごとにテーマを選定し、その表現方法(素材作成方法)を考える。
方 法	<p>1. 旧山古志村80日間の映像を見る。(15min) (災害による悲しみ、復旧・復興の難しさを知る)</p> <p>2. カレンダー素材作成方法の検討(11月18日)</p> <p>(1) 各班は、前回作成した由岐町復興計画案の中から、カレンダーの素材にするテーマを選定する。</p> <p>(2) 選定したテーマをどのように表現するかを相談し、決まった内容を紙に書く。</p> <p>3. 各班ごとの発表</p> <p>(1) 各班ごとに、選定したテーマ及び表現方法について発表する。</p>
準備物	<p>中学校：白紙、マジック、筆ペン、デジカメ</p> <p>総務課：由岐町復興計画案、</p> <p>DVD「NHKスペシャル いつかまた故郷へ ~山古志村・村民たちの80日~」</p>

防災教育実施案

タイトル	次世代に夢をつなぐ防災カレンダーブル - 2 「7~12月」
日 時	平成17年11月25日(金)、12月9日(金) 午後1時25分~3時15分
場 所	由岐中学校1学年教室ほか
目 的	前回の学習では由岐町災害復興計画の中から、各班ごとにテーマを選定し、その表現方法(素材作成方法)を考えた。今回はその表現方法に従って、カレンダーに使う素材を作成する。
方 法	<p>1. カレンダー素材の作成作業</p> <p>(1) フリーダム</p> <p>テーマ：みんなでいさつする</p> <p>内 容：人の絆の大切さを絵と写真を使って表現する。写真は地域に出て、地域の人々の笑顔を撮ってくる。</p> <p>素材ベース：絵、写真(実写)</p> <p>必要な物：画用紙、絵の具、デジカメ</p> <p>(2) 外野の人たち</p> <p>テーマ：まちづくり構想案をつくろう！</p> <p>内 容：災害復興計画の中に出てきた提案を地図に記入し、まちづくり構想案を作成する。</p> <p>素材ベース：白地図</p> <p>必要な物：白地図、マジック、色鉛筆、ペン</p> <p>(3) くまちゃん</p> <p>テーマ：津波防潮林</p> <p>内 容：湾内の航空写真に木を描いた紙を貼り付け、津波の威力を抑える防潮林を表現する。</p> <p>素材ベース：航空写真</p> <p>必要な物：湾内の航空写真、色画用紙、のり</p> <p>(4) 読売巨人軍</p> <p>テーマ：お年寄りと若者との絆</p> <p>内 容：デイサービスセンターに行き、そこでお年寄りと交流しているところを写真に撮り、お年寄りと若者との絆の大切さを表現する。</p> <p>素材ベース：写真(実写)</p> <p>必要な物：デジカメ</p> <p>(5) サランラップ</p> <p>テーマ：高い所に町をつくる</p> <p>内 容：津波から襲われない、高くて安全な場所の整備の必要性を、4コママンガ風に表現する。</p> <p>素材ベース：絵</p> <p>必要な物：画用紙、絵の具(生徒個人)</p>

	<p>(6) 個人軍</p> <p>テーマ：防災教育</p> <p>内 容：一人が先生役、その他の者が生徒役となり、先生役が生徒役に対して津波高を示している様子を写真に撮り、防災教育の大切さを表現する。</p> <p>素材ベース：写真(実写)</p> <p>必要な物：スタッフ、大人の服装、デジカメ、ペットボトルのキャップ、割り箸</p>
準備物	<p>中学校：画用紙、デジカメ、マジック、色画用紙、のり、はさみ、スーツ、筆ペン、白紙</p> <p>総務課：白地図、色鉛筆、航空写真、スタッフ、ペットボトルのキャップ、割り箸</p> <p>生徒個人：絵の具</p>

防災教育実施案

タイトル	お世話になったあの人 「防災カレンダー」をわたそう!
日 時	平成18年1月13日(金) 午後1時25分~2時15分 平成18年1月20日(金) 午後1時25分~3時15分
場 所	由岐中学校1学年教室ほか
目 的	今年度の防災教育において、お世話になった地域の方々に防災カレンダーを配付することで、地域との関わりを深める。また講師の先生方には防災カレンダーを郵送するが、その際に手紙の書き方の基本を学ぶ。
方 法	<p>1 . 防災カレンダーを配付・郵送する人の選定(1/13)</p> <p>(1) あらかじめ先生は、下記のリストを作成しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災教育でお世話になった地域の方々 ・防災教育でお世話になった講師の方々 <p>(2) 生徒達は各班に分かれて、カレンダーを配付・郵送する人を選定する。 (時間の都合上、配付する人は各班2名、郵送する人は各班1名に限定する)</p> <p>(3) 各班でカレンダーを配付・郵送する人に手紙を書く。 この際、手紙の書き方の基本を教える。</p> <p>2 . 防災カレンダーを配付・郵送する(1/20)</p> <p>(1) 6つ班を、前半配付・後半郵送組と、前半郵送・後半配付組に分ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前半配付・後半郵送組：フリーダム、外野の人たち、読売巨人軍 ・前半郵送・後半配付組：くまちゃん、サランラップ、個人軍 <p>(2) 班に分かれて配付、郵送作業を行う。 地域の人々との関係を深める。</p> <p>3 . 最後の話</p>
準備物	中学校：便せん、封筒（大と小） 防災カレンダー